OMUPニュースレター

大阪公立大学共同出版会
〒599-8531堺市学園町1-1
TEL(072)252-1161 FAX54-9408
振込先　UFJ銀行中もず支店
普通　3976510
大阪公立大学共同出版会
編集・発行 W. WORKS

第３回ＯＭＵＰサロン開催される

第３回ＯＭＵＰサロンは、秋色濃くなった平成14年10月18日（金）、地下鉄中百舌鳥駅から至近の「焼き鳥レストランろっそ」で午後６時から開催された。

今回は「農学生命科学へのいざない」本の著者10人の先生方を囲んで行われたが、原稿作成の裏話、エピソードを中心に自由に語っていただく趣向はサロンならではのもの。幸い、それぞれご多忙な身でありながら、５人の先生にご出席いただき、それぞれ個性あるお話をご披露いただいた。

冒頭、「農学生命科学へのいざない」の販売状況が報告された。大阪府大生協書籍部でも何ヶ月かの間ベストセラー、トップ５に入る売れ行きであったこと、府立大学ガイダンスにＯＭＵＰデスクを設け、「いざない本」を置いたところ、父兄、受験生の他、府大出身の受験生のお祖父さんがデスクに立ち寄り、他の出版物の購入もいただいたりしたこと、など。なお一層の販売戦略をたてることの必要性も指摘された。

さて、サロンでは、出席著者の堀内昭作、馬場栄一郎、児玉洋、清田信、林英雄先生の順にお話をご披露いただいた。大要は次の通りである。

堀内：始め何を書こうかと思案したが、高校生から大学生を念頭に置き、語りかける口調で書くことにした。内容としては、果樹園芸学を専門にしているので、大阪の果樹でもあり、研究室の継承としても「ブドウ」学が面白いことを紹介したかった。なにがしかの学術的雰囲気が伝わったただろうか。（Ｈｏｐｅ君への語り口は農学者と言うよりは、文学青年を彷彿とさせる、格好なメッセージとの評判。ために割り当てのページを超過した達筆ぶり。）

馬場：趣味は多い方だと任じてはいるが、とくに若い皆さんには、私が若いときに受けた教育が自分の人間形成に関与したと思う点について語ったつもりだ。（馬場先生のメッセージが大変ユニークで味があるとの書評もあったほどで、ひとしきり熱心な応答が交わされた。とくに、古井戸のカエルなど、哲学的・禅問答的との声あり。）

児玉：インタビューを受け、テープ起こしをした原稿を見た感想として、ＯＭＵＰの編集の能力を評価したい。獣医学を専門とする者として、新入生などに基本的な考え方、進め方に照準を合わせたつもりだ。学術論文とはひと味違うものを感じた。（先生の個性を遺憾なく発揮していただき、啓蒙的と好評でした。）

清田：時間が十分なかったので、いろいろな思いもあったが、これまでの自分の分野で取り扱ってきたことを、植物の餌としての二酸化炭素の環境を調節する視点から、組織培養から宇宙ステーションまで、として語ってみた。（清田先生の堅実で真摯なメッセージは、いざない大取りにふさわしく好評でした。）

林：楽しく読んでもらうことに努めようとした。この種の本としては個性を発揮した方がよいと思い、全体として先輩や後輩を実名で挙げたりした。多少差し障りを気にしながら。（実験室の様子や先生の研究方針など、手に取るような描写でとても好評でした。）

サロンにご参加の先生方は、前回の第２回に比較すると少なかったが、和気藹々とした雰囲気の中で焼き鳥をほおばりながら、あるいは鶏鍋をつつきながらＯＭＵＰユニヴァ・シリーズ第１号本の誕生を祝うサロンであった。分野を異にする仲間たちが腹蔵なく語り合える喜びも満喫した。そして、現在計画中の各分野シリーズの多くが発刊されることを期待して、更けゆく秋の夜、家路へと急いだ。（足立）

新春に寄せて

ＯＭＵＰが発足して、２度目の新年を迎えました。常務理事の足立泰二氏に、今年の抱負を語っていただきました。

ことしこそOMUP飛躍の年に

－新年に想う－

大阪公立大学共同出版会
常務理事　足立　泰二

新年、明けましておめでとうございます。皆様には希望に満ちた新年をお迎えになりましたでしょうか。

ところで、昨年は日本国中の国公私立大学を問わず、「トップ３０」、「COE」で大いに揺れた一年でした。その結果はどうだったのでしょう。喜悲こもごもというべきかもしれません。

そもそも大学は研究・教育の2大機能のほかに、もう一つの忘れてはならない啓蒙という機能を持つといわれています。その意味では時代変遷はあろうとも「知の中枢」であることは論を待たないところであります。従ってその大学にあって、出版は「知的創造活動」の中核にあるはずであります。その出版活動は上記の３機能に従って、学術書、教科書、教養書を出版する役割を持つべきであります。ここではそれら書籍の種類を定義するなどという野暮なことを言うつもりもありません。

さて、昨今の大学出版の環境変化と本格化する大学の競争の現況について、いまさらながら私が申し述べるまでもありません（念のため、大学出版部協会誌「大学出版」最新号を通覧いただきたい。http://www.ajup-net.com/）。私どもは単一の大学に限定することなく、偶々、大阪南部に５公立大学のユニットが存在することから、奇しくも今ミレニアムの初めに、教授有志が学会方式の任意団体としてOMUPを設立しました。幸い、発足以来すでに１００名を超える教授集団の創設基金をお預かりして、運営に当って、すでに丸２年になろうとしています。出版活動は当初の目標からすると決して満足すべきものとは言えないかもしれない。しかし、ここに来て、ようやく上昇機運が根付いて来つつあるといって良いのであります。知的創造の活動として、地道に、かつ堅実に展開することこそ、昨今の大学を取り巻く環境に自己主張をすることだからです。

研究成果を発表する雑誌の定期的刊行をすすめ、研究成果を教育活動に活用すべく教科書、あるいは副読本を取りまとめる教授もひとりふたりではありません。また一般啓蒙書とも言える本も、単行、シリーズ本も軌道に乗りつつあると言ってよいでしょう。そこで今年を我がOMUPの一段と飛躍する年にしようではありませんか。時あたかも学術出版の議論が国際的にも注目を集めつつある昨今、OMUPに「元気」を託し、堅実でしかも未来展望のできる環境を創成しようではありませんか。

書店営業雑感その２「大阪からの文化創造」

だいぶ以前から、出版業界は東京一極集中の状況である。しかし、かつて大阪が、日本の出版業界の中心地として活況を呈した時代があった。井原西鶴が『好色一代男』を草した元禄から宝永年間、秋田屋市兵衛や池田三良右衛門などの多数の書肆が出版を競い合った時代と、その後にくる「懐徳堂」の設立により町人文化の気質が向上して、中国白話小説が流行した宝暦・明和年間である。この懐徳堂は、まさに大阪の町人が作り上げた学校であり、今日のＯＭＵＰに属する各大学のようなものである。ところがなぜか、国立大学である大阪大学の学校案内を開くと、あたかも懐徳堂の精神を受け継いでいるのはそちらのように書かれている。ならば、21世紀の新たな時代に、新たな市民文化をこのＯＭＵＰから起こそうではないかと思う。地元大阪の市民を動かせるほどの新たな文化の創造は、各先生方の叡智を集めれば難しいことではないと私は思っている。各分野の枠組みを越えた文化創造の提案を、もっと自由に出し合える雰囲気と、その実践のための活動力をＯＭＵＰには期待する。……まもなく、東大阪から宇宙ロケットが飛び立つそうだ。疑う人も多い報道だが、その行動力には負けてはいられない。（編集長　金井）

新刊予定本の紹介

◆ 植物と微気象―群落大気の乱れとフラックス―』文字信貴（大阪府立大学大学院農学生命科学研究科）。B5版、本文148頁、上製本。本体価格2，０００円。

陸上生態系と大気とのかかわりについて、乱流や微気象に関するテキストは多く出版されていますが、植物と大気の間の熱あるいは物質交換を、大気乱流の面から扱った適切なものがありません。今回の出版は、その分野における基礎から測定までを含んだ解説書です。１月末発行。お楽しみに。

３月には清田信先生の『農学からの地域環境づくり30話』、笹山忠則先生の『公立諸大学の情報機能』の２冊の新刊が発行される予定です。こちらも楽しみにしてください。

広告
明けましておめでとうございます。
「有限会社ダブル・ワークス」
平素は、格別のお引き立てを賜りありがとうございます。
お蔭様で、W.WORKSは、昨年11月に１周年を迎えることができました。これまで以上に、皆様のご期待に添えるよう、全力を尽くす所存でございます。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。
有限会社ダブル・ワークス代表取締役
難波美都里
【業務内容】
・大学業務受託
・学会運営事務代行
・調査研究・企画等の受託
・ホームページ ポスター、パンフ等作成
■働く女性支援ネットワークの構築とインキュベーション・オフィス
わくらく会費システム
驚愕の会費回収率！
学会くん
もう研究のジャマはさせません！
W.WORKS
〒590-0035堺市大仙町2-1大阪女子大学内　電話&FAX072-222-8244
e-mail：orange@w-works.jp http://www.w-works.jp